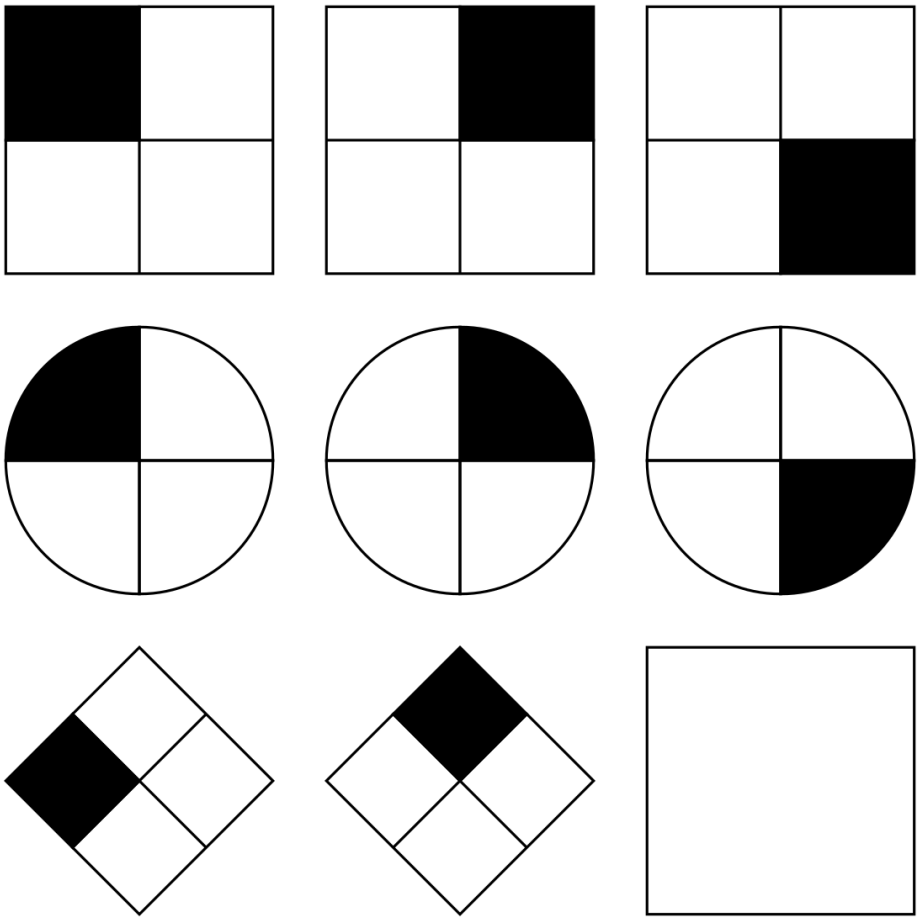
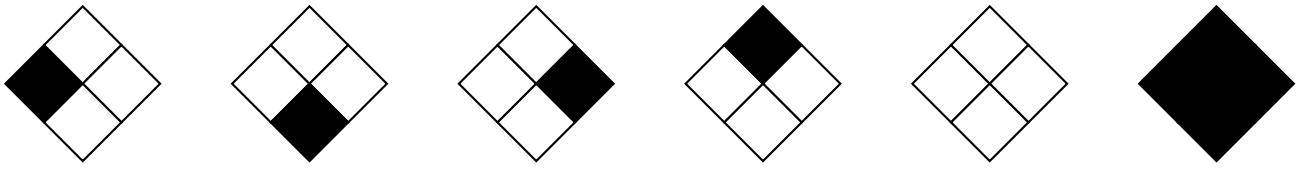
# 練習① 空欄に合う図を選ぶ

**RCPMの正式問題・公式練習問題ではありません。**

**右下の空欄に入る図を、下のA〜Fから1つ選んでください。**





A　B　C　D　E　F

**回答：＿＿＿＿＿＿＿＿　日付：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏名／ID：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**

**教材説明用の例題です。正式なRCPMの直前練習として組み込まず、別の練習活動として扱ってください。**

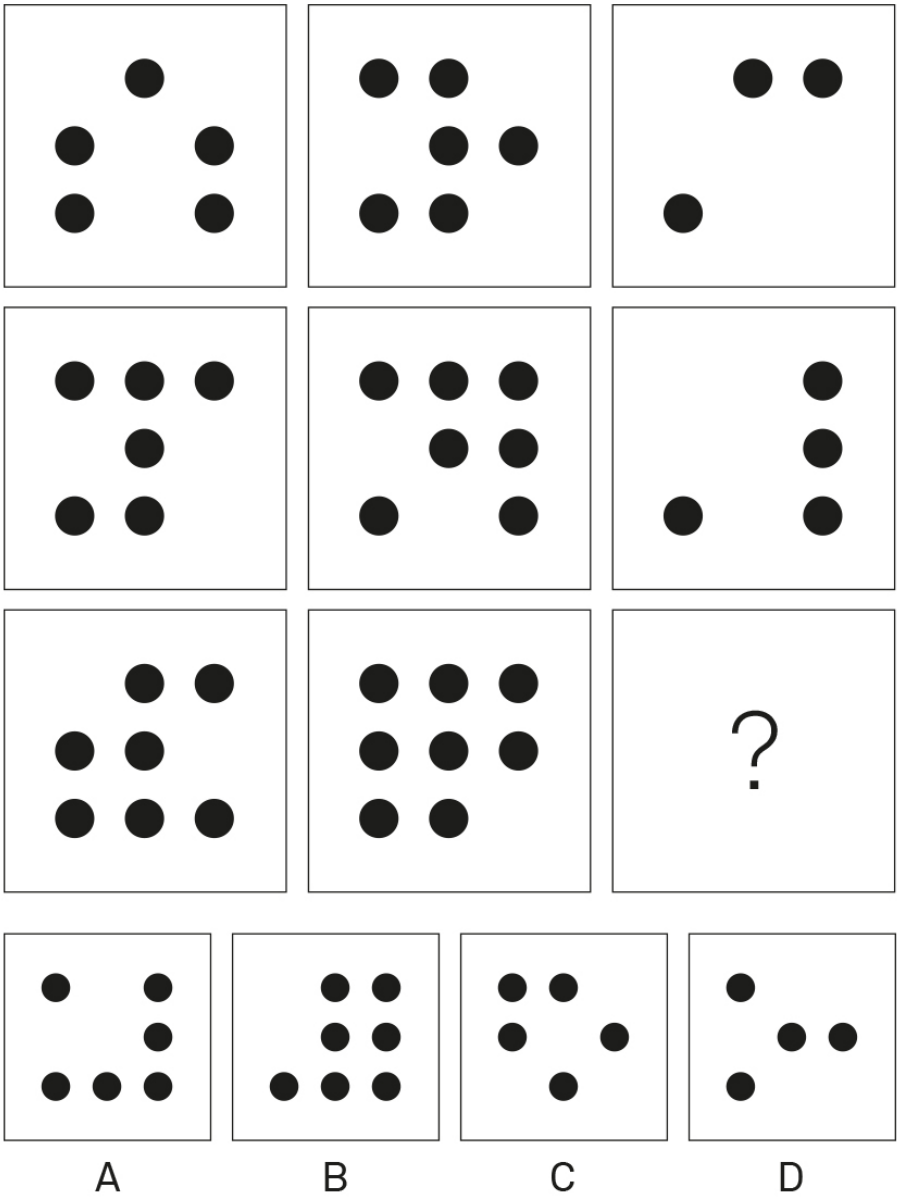
**図：Life of Riley（原図Jirah）、Wikimedia Commons「Raven Matrix.svg」**
**CC BY-SA 3.0。原図を使用し、選択肢を編集追加。図・選択肢部分も同ライセンス。**

**練習結果をRCPMの得点・IQ・診断に換算しません。**

# 練習② 点の並びを見比べる

**RCPMの正式問題・公式練習問題ではありません。**

**「？」に入る図を、下のA〜Dから1つ選んでください。**




**回答：＿＿＿＿＿＿＿＿　日付：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏名／ID：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**

**この公開例題は4選択肢です。RCPMの正式問題の6選択肢とは異なり、難易度や基準値も対応しません。**

**図：Flantinori（2018）「Raven Progressive Matrix.jpg」／Wikimedia Commons**
**CC0 1.0。原画像の内容・選択肢・配置は変更せず、縮尺のみ調整。**

**練習結果をRCPMの得点・IQ・診断に換算しません。**

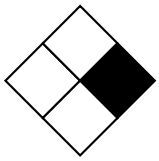
# 正答・解説・練習の記録

RCPMの正式問題・公式練習問題ではありません。

このページは回答後に確認します。以下は図の規則から整理した編集上の解説で、RCPMの採点キーではありません。

## 練習①：正答 C

各行で、黒い部分が左から右へ90度ずつ時計回りに移動します。最下段は「左 → 上 → 右」となるため、右側が黒いひし形を選びます。



## 練習②：正答 D

各行で左と中央の点を同じ位置で重ね、両方にある点を消すと右の図になります。最下段では左上・中央・右中央・左下の4点が残るため、Dが当てはまります。

### 観察・記録欄（独自欄。標準化された評価ではありません）

練習①の回答：_____　自力／説明後：_____　未回答の理由：

---

練習②の回答：_____　自力／説明後：_____　未回答の理由：

---

見え方・探索の偏り・疲労・回答方法：

---

説明した内容／説明前後の反応：

---

正式検査と区別：本例題の正誤をRCPMの36点に加えず、年齢基準・IQ・認知症判定に使いません。正式検査を予定している場合は、練習歴を実施者へ伝えてください。

### 出典と利用条件（リンクをクリックできます）

例題①：Life of Riley / Jirah, Raven Matrix.svg
図・追加選択肢：CC BY-SA 3.0
例題②：Flantinori, Raven Progressive Matrix.jpg
CC0 1.0

---

練習結果をRCPMの得点・IQ・診断に換算しません。

# 04 実施前の確認・実施の流れ

日本語版1993年を対象とした編集資料 ｜ 正規検査一式と併用

RCPM：レーヴン色彩マトリックス検査。本人が図の欠けた部分に合う選択肢を選ぶ個別検査です。家族による代理回答や、療法士が日常動作を見て採点する尺度ではありません。

## 正規教材を準備する

日本文化科学社の検査用テキスト（輸入版彩色図）・日本語手引・正規記録用紙を使用します。原著者 J. C. Raven／原版 Pearson／日本版 杉下守弘・山崎久美子。適用45歳以上。使用者レベルB。

公式の所要時間の目安は10〜15分です。15分で強制終了する規則と読み替えないでください。教示、導入時の説明、回答変更・無反応・中止の処理は、手元の日本語手引で確認します。

## 実施条件の確認（独自の確認欄）

対象者ID：_____ 評価日：_____ 年齢：_____歳

評価者・職種：_____ 手引の版／刷：_____

目的・診断／発症からの期間：_____

眼鏡・視力／視野：_____

失語・理解／反応方法・使用する手：_____

姿勢・机／補助具・介助：_____

覚醒・疲労・疼痛／環境：_____

## 実施方法の説明図（独自図・検査刺激ではありません）

**正規図版を提示**
手引の順序・教示

**本人が選択**
答えを誘導しない

**評価者が記録**
正式基準で採点

提示方法や反応方法を変更した場合は、変更内容と解釈の限界を記録します。画像の拡大・白黒化・選択肢削減・独自練習問題への置き換えは、正規検査と同一条件ではありません。

正式な検査用紙・手引の翻訳／複製ではありません。単独で正式評価は完結しません。

# 05 採点の確認・結果の記録

日本語版1993年を対象とした編集資料 ｜ 正規検査一式と併用

以下は正規用紙で採点した結果をまとめる独自欄です。設問別の回答・正誤と採点キーは、正規記録用紙・手引で管理してください。

## 採点の構造

A・Ab・Bの3セット、各12問、合計36問。正答1点・誤答0点で正答数を合計します。全問を標準条件で評価した総点は0〜36点です。高いほど正答が多いことを示します。

選んだ番号は得点ではありません。説明の上手さや反応の速さに独自の加点をしません。正答キーとの照合は正規教材で行い、答えを推測して採点しないでください。

## 結果の転記（正規用紙と照合）

対象者ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

開始：____時____分 終了：____時____分 中断：_____

A：_____ / 12点 Ab：_____ / 12点 B：_____ / 12点

総点：_____ / 36点 または総点を報告できない理由：_____

正規記録用紙の管理番号／照合者：_____

## 未実施・未回答・中断を、誤答と区別して記録する

公開資料だけでは、日本語手引の無反応・回答変更・中止・欠損処理の詳細を確認できていません。本資料では処理規則を新設しません。未確認のまま0点補完・比例換算・推定総点の算出をせず、該当箇所と理由を残して手引で確認してください。

該当するセット・項目／実際の反応／中止・未回答の理由

手引の参照ページ／確認した正式な処理／標準条件からの変更

点数だけで診断・生活自立・運転可否を判定しません。

正式な検査用紙・手引の翻訳／複製ではありません。単独で正式評価は完結しません。

# 06 解釈・申し送り・資料の関係

日本語版1993年を対象とした編集資料 ｜ 正規検査一式と併用

## 結果と成立条件を一緒に読む

年齢に対応する基準は正規日本語手引で確認します。素点をそのままIQとせず、単一のカットオフだけで診断しません。失語、視力・視野、空間への注意、疲労、課題理解、回答方法を検討し、必要な追加評価につなげます。

参照した基準・対象年齢・手引ページ／比較結果

観察所見（正式得点とは別）：探索、反応、疲労、条件変更など

生活場面で確かめる課題／支援方法／共有先

## 申し送りの型（独自）

版・評価日 → A／Ab／B・総点 → 反応方法と実施条件 → 観察所見 → 解釈の限界 → 次に確認する生活課題。再検査では前回日・使用版・条件差も残し、点数差だけを改善／悪化と断定しません。

## 掲載内容・未収録部分・正式資料の入手先

本PDFには、標準刺激図36問、正答キー、公式記録用紙、逐語教示、年齢別換算表を収録していません。正規資料の複製・再配布許諾は取得していません。説明図は実施の関係を示す独自図で、公式図版の代用品ではありません。

正式資料：日本文化科学社「レーヴン色彩マトリックス検査」（1993年）。製品名で公式サイト内を検索し、検査用テキスト・手引・記録用紙を確認してください。原版出版社：Pearson。

## 参照資料

日本文化科学社：製品情報、心理検査ご利用時の注意点。

Pearson：Raven ’ s Coloured Progressive Matrices／Legal Policies。

用稲丈人・種村純（2009）高次脳機能研究 29：386 – 398。

宇野彰ほか（2005）音声言語医学 46：185 – 189。

Smirni D（2020）Brain Sciences 10：877. doi:10.3390/brainsci10110877

正式な検査用紙・手引の翻訳／複製ではありません。単独で正式評価は完結しません。